

# 下市町教育委員会だより

教育委員会から町民の皆様への情報通信



令和4年4月1日 第21号  
奈良県下市町教育委員会  
教育長 小谷 隆男 発行

## 四月の風に吹かれて ～ 新しい気持ち、新しい自分を～

「何かが起こりそうな気がする。」4月はそんな月です。学校では、新しい出会いがあり、新しい教科書が渡され、子どもたちも何かわくわく、そわそわします。この時期にしか味わえないそんな気持ちの中で、心機一転、新しい自分を見つけて欲しいと思います。

今年度は、**小学校も中学校も閉校の年度**となります。閉校とは言っても、それぞれの伝統は義務教育学校「下市あきつ学園」が引き継ぎます。いいものは残し、新しくすべき部分は思い切って改革する。そのための一年になります。

今いる子どもたちの「学び」を最優先に考えながらも、**次世代の学校へと生まれ変わります。**



### 建設現場に感動

#### <下市中学生>

大日本・森下JV様のご厚意により、中学生が学校建設中の現場を見学しました。

所長の西川さんが丁寧に説明してくださり、具体的な建築手法のことや、色々な役割を担当する多くの業種の方々が、力を合わせて完成させることなどを学びました。中学生たちは、**初めて見る建設現場に感動し、興味深く見学していました。完成した新しい校舎へ登校する日を楽しみに**しています。



### 「下市町立下市あきつ学園」

#### ～ 校名が正式決定 ～

3月議会で学校設置条例が改正され、新学校「下市あきつ学園」が正式に誕生しました。「あきつ」は、「とんぼ」の古語。70年間余り中学校の校章として親しまれてきたシンボルです。ここから、また新たな伝統を刻んでいきます。



### 異動された校長先生・教頭先生のご紹介

#### お元気で!前小学校長先生 鍵田 幸男 先生

下市小学校の校長として、3年間大変お世話になりました。今年度は奈良市立椿井小学校長としてご活躍されます。



#### 楠 利夫 新小学校長

昨年は下中校長でしたが、今年度は下小の校長先生です。情熱的な優しいまなざしで子どもたちを見守ります。



#### 山崎 正悟 新中学校長

昨年は教頭先生でしたが、今年度は校長先生として活躍されます。下中に23年間お勤めで、下中を一番良く知る先生です。



#### 黒 朝香 新中学教頭

東吉野中の教頭先生から、下市中へ来ていただきました。明るく楽しく子どもを育ててくれると期待しています。



## 「下市町立下市あきつ学園」の校章・校歌を募集します

令和5年4月開校の下市町立下市あきつ学園の校章と校歌を次の要領で募集します。

### ○ 「校章」の部

次の2点をセットにして応募してください。

- ・ デザイン画 (A4・1枚・紙質は自由)
- ・ デザインについての説明書 (A4・1枚)

<基本コンセプト> (\*応募要件ではない)

小学校校章「桜」、中学校校章「トンボ」など、下市町立を意識したデザイン

### ○ 「校歌」の部 (2名以上の合作も可)

次の3点をセットにして応募してください。

- ・ 歌詞 (A4・1枚)
- ・ 楽譜 (曲譜・A4縦サイズ)
- ・ 音源 (曲の音声データCD1枚)

<基本コンセプト> (\*応募要件ではない)

歌詞に「下市あきつ学園」の校名があり、明るく前向きな曲調

### ○ 応募期間

令和4年4月1日 ~ 令和4年5月31日 (厳守)

### ○ 提出場所

下市町教育委員会 (観光文化センター内)

### <応募のきまり>

- \* 応募は下市町在住の方に限ります。
- \* 受付票を記入していただく都合上、郵送ではなく持ち込みでお願いします。
- \* 応募された作品の著作権は下市町教育委員会の帰属となります。そのことを了承した上で応募して下さい。
- \* 作品を一部改変することもあります。
- \* 一人1応募 (各部ごと) までとします。

### <選考方法>

- \* 作者名は伏せた上で選考に入ります。
- \* まず、選考委員が優秀作品を選びます。選ばれた優秀作品が2点以上ある場合、児童・生徒の投票により最終選考を行い校章・校歌を決定します。
- \* 優秀作品がない場合は、他の方法を検討します。
- \* 選考委員は、小中の校長、教育委員、教委事務局の計7名とします。
- \* 結果は9月号の紙面でお知らせします。

## 「菊田コレクション」① 氏の功績をたどる

令和3年2月17日、郷土史家の菊田仁郎氏が、残念ながら他界されました。以前に下市で教員をしていた友人から、「下市へ行ったら菊田先生に会うといい。下市のことがよくわかるよ。」と聞かされていました。その日を楽しみにしていたのですが、結局、お会いすることは叶わずじまいでした。

あえてご紹介するまでもないと思いますが、菊田氏は下市の文化財を研究する上で大きな功績を残されました。昭和33年発行の「大和下市史」では、調査・編集委員として名を連ね、関西大の網干善教先生と一緒に岡峯古墳の発掘にも関わっておられます。町文化財保護委員長を歴任し、文部科学省から文化功労者表彰も受けられています。

この度、そんな氏が収集した貴重な遺品を、教育委員会で預かることになりました。まさに「菊田コレクション」と呼ぶにふさわしい収集です。その中の逸品を、次号から本紙で紹介していきます。



国際紛争は、様々な原因が複雑に絡み合っていて、素人があれこれ論評するのは控えます。ただ、爆撃で我が子を亡くし泣き崩れる母親、夫を戦地に残し逃げてきた妻と子、避難路を1人号泣しながら歩く少年、暗い中で懸命に治療を続け途方に暮れる医師…。それらの映像からは、理屈なく独裁者への激しい憤りを感じざるを得ません。

ご意見・お問い合わせは…

下市町教育委員会事務局

☎ 0747-52-1711

FAX 0747-52-5159

✉ kyoi@town.shimoichi.nara.jp